

JR東海労ニュース

No.2583

2021年3月22日

JR東海労働組合



2021JR総連春闘勝利！ シリーズ⑰

新賃金、夏季手当等の回答は大いに不満！ 再申し入れ提出！

本部は3月18日、2021年度賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求の申し入れについての第6回団体交渉を開催し、会社から回答が示されました（本紙No.2582参照）。本部は席上、大いに不満であることを表明すると共に抗議し、持ち帰り検討としました。

社員の生活の維持向上分である賃金引き上げや、生活給としての性格を持った夏季手当の超低額回答は到底許せるものではありません。会社の第3四半期決算では、売上高、営業利益、経常利益全てが減額となっていますが、総資産は9兆5千億円、純資産においては3兆7千億円もあり、自己資本は3兆8千億を超えています。負債合計の5兆7千億円を軽く凌駕しているのです。利益剰余金においては3兆6千億円超あり、これはこれまでに社員が汗水流して働き貯めてきたお金です。人件費は12億円ほどでJR東海労の要求が実現できるし、会社の体力からすれば微々たるものです。経常損失は1,477億円とされていますが、リニア建設に投資さえしていなければ黒字であったと考えられます。以上のような理由から、今回の超低額回答は全く許せるものではありません。

一方、JR東海ユニオンは雇用不安を煽り、春闘破壊をしてきました。『JR連合NEWS～2021春闘～』No.41で、JR東海ユニオンは「危機的状況の中、組合員の声に基づく、多くの制度政策要求の実現を勝ち取る！」と成果を打ち出し、即刻妥結しました。しかも、「社業を支え続けてきた組合員の付託に最大限応え得ることができたものと判断」と締めくくっています。組合員は満足しているのでしょうか？ どこが付託に応えたのでしょうか？ そもそも、夏季手当の安定的支給ベース2.7ヶ月を下回る2.5ヶ月の要求が組合員の利益を放棄したのもあることは言うまでもありません。

JR東海労は回答日当日、再申し入れを提出しました。再申し入れ団体交渉では、粘り強く闘います。

※第7回（再申し入れ）団体交渉は、3月25日に開催します。